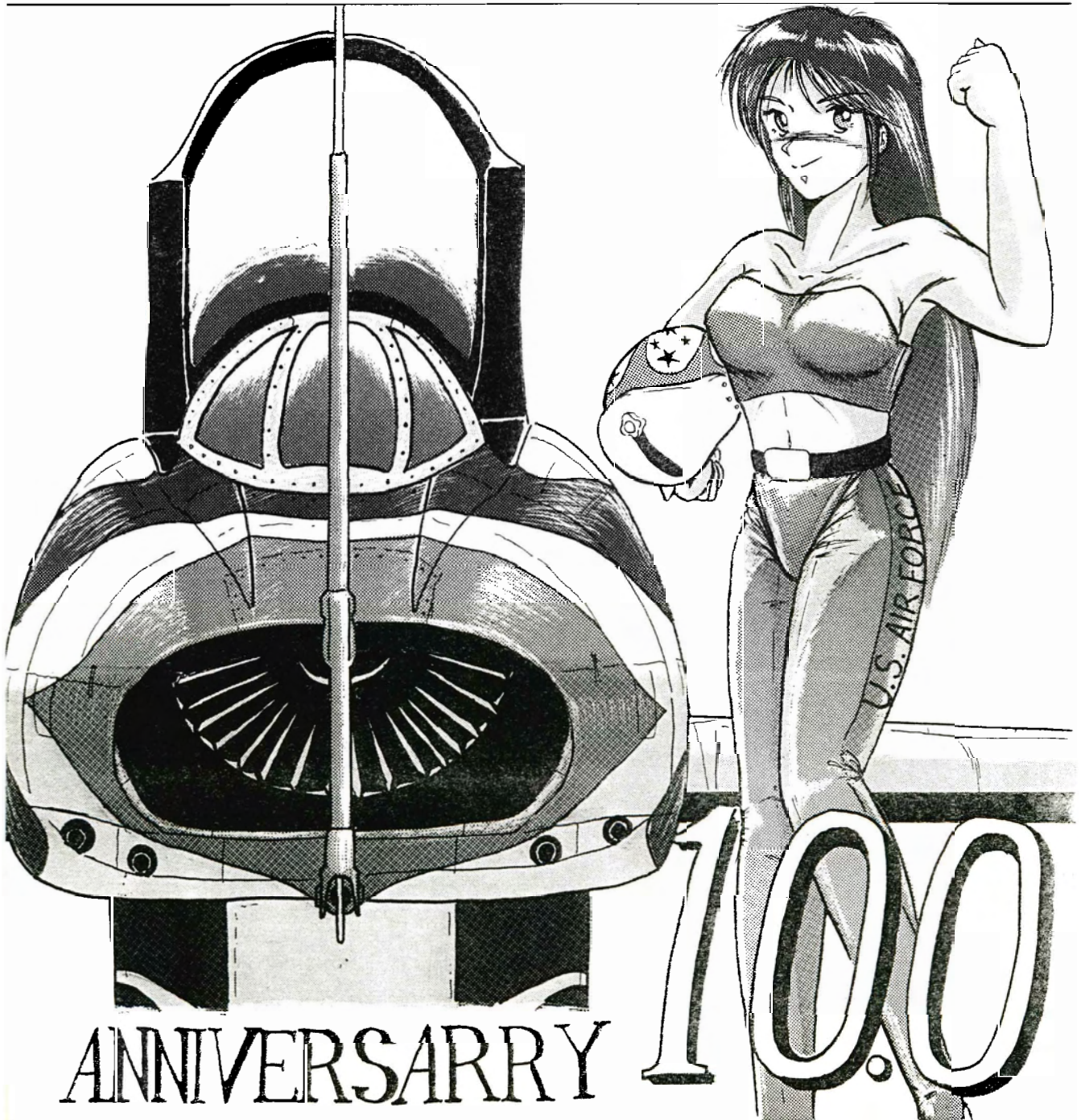


Blowers



めにう ~MENU~

- 3 Mental Ranger 文：長船吉光
絵：ただのりな
- 7 学園PBM真鶴学園風雲録 全体リプレイ
真鶴レポート 岬当麻
- 16 空技廠創立3周年企画
スタッフ紹介《その2》 空技廠横浜評議会
- 19 読者用ページ《三等雑居室》
- 23 迷想装甲擲弾症候群 紺野紫楼
- 27 行け行け外回り！ 大阪・堺篇 菊地研一郎

※「真鶴学園風雲録」に参加するためには、別売りのルールブック（送料込み200円）が必要です。今回は8/30までにアクションを送って下さい。

※「PEACE PLESSER MAYA」はイラストレーター音信途絶のため、休載しています。（メカSFもの：イラストレーター急募中）

※「Damyan=Kizaki's Road of The Messiah.」は遊演体のリアクション発送遅滞に伴う脱稿遅延のため、休載しました。

※「プロメティアのページ」は郵便事故による連絡不良のため、休載しました。

☆ネットゲーム（遊演体／ホビー・データ）参加者の皆様へ

あなたのキャラのリアクションのコピーと一緒に送って下さった場合、本のお代を300円ポッキリ（早い話、切手不要ということ）としています。

「Echoで悪いか！」 by 本居こじ

さあ、コミケ記念号です。奇しくも巻号は10号。全くおめでたいことばかりです。

……話が急に飛びますが、今、夏休みで図書館が閉まっているので、児童館で保父のアルバイトをやってます。すごくいいぞー。子供と遊んで一日6000円。他の仕事は一切なし。お給料もらうのが悪い気がするほど楽チンです。図書館OBで今大田区職員をやっている松尾氏（こないだの厚木写真撮影会で空技初登場）から紹介された話なんですがね。

でも、あれやるとロリコン野郎の気分もわかるなあ。子供相手にオセロ（現在無敗自己記録更新中）やっていると、横から他の子がひざの上に乗ってくるんだな。も、そけだけで気分よくて気分よくて。（←すっかり孫娘を迎えた老爺の心境）しかも「サイレントメビウス」の彩弧由貴ソックリの子までいるから、なおさらですな。今までロリコンという種族を軽蔑と嫌悪の眼差しで見してきた私も、これにはシャッポを脱ぎました。今や何かちょっとしたキッカケから、自分がロリコンの仲間入りしそうだもんなあ。ああ怖い。

Mental Ranger

文・長船吉光
絵・ただのりな



(前回までの粗筋)

宿場町で副業に茶店を営む尼僧・ミラマー・レキシントンは、町の民から失踪した女の子の探索を頼まれた。老僧ラングレーの力によってその子が魔族の手にさらわれたことまでは判明したが……

7:ミラマーは、勢いを抑え気味にした暖炉を背にして、円卓の上にカードを並べていた。いびつではあったが、三枚ずつ三列、都合九枚のカードが表を見せている。

「さて。さっきサティを捜すのに多少力を使いすぎたので、しくじるかも知れんが……」彼女は子供たちを見回した。全部で十人である。その中から、彼女は十二歳になる少女に目を合わせた。「これ、テティス。このカードをあらためてくれんか。絵札は全て抜いてあるはずじゃ」

「……はい、ミラマー様」テティスは念入りにカードを調べて答えた。「全部2から10までの数です」

「全て黒かな？」

「はい、全部クラブとスペードです」

今度は、五歳になる少年を呼んだ。

「パイパー、全て裏返しにするのじゃ」

「……したよ」

彼がそう言うと、ミラマーはまじめな表情を作った。部屋のランプは全て消されていて、薄暗い中で暖炉の火に後ろから照らされた彼女は、これからやる手品のいかがわしさを強調した。

「それでは参る」ミラマーは何か特殊なまじないでもかけるように、カードの上で手を廻し始めた。「……よく見ておれ。一瞬じゃ。一瞬のうちに、このカードは表に返って絵札になる！」

ボン、と机にまっ白の煙が立った。子供たちはかたずを呑んで机をのぞきこんだが、——次の瞬間、白けた。

机の上には、白い卵が九つ並んでいた。それぞれに絵札の柄が付いているが、これでは失敗である。彼女はわざと心外そうにした。

「変じゃな」

彼女がそう呟いたとき、異変が起きた。卵がむくむくと変形し、黄色くな

ってそのままヒナになったのである。

「む」

彼女は唸った。あと一息。

ボンと音を立てて、ヒナが白い煙に包まれた。中から飛び出したのは羽根の間に絵札をはさんだ親鳥——！

瞬間、笑いが湧いた。

ミラマーが子供をつれて食堂を出てから、再びその空気は緊迫した。ラングレーは、単刀直入に告げた。

「恐るべき事態じゃ。悪魔が——地獄の使いが、この町におる」

室内に、静かな雷が走った。

「その悪魔は、新月の夜更けに犠牲を食う……」ラングレーの声が震えだした。「そしてそれは、若い方がよいという……」

「では、サティはもう駄目なんで？」

絶望したような声がかかる。

「否。まだ手はある」彼は右手を上げて制した。「今度の新月まで一週間……それまでは、サティも食われはせぬ」

「この町におって、でもおらんちうのは……で、結局どうということだべ？」

ラングレーは白いあごひげをもてあそびながら、しばらく考え込んだ。どう説明するべきか、彼も適当な言葉が見つからなかったのだ。

「つまり、われらの世界と地獄の間に漂っておると言うか……」

「では、結局助けらんねえでねえか？」

「否！」ラングレーは一喝した。「一つだけ手はある。まだ見込みはあるのじゃ」

「何だべ……？」

町人たちが、心なしかにじりよってきた。ラングレーは、一息ついて、静かに告げた。

「ミラマー・レキシントンの力を借りるのじゃ。あの者と、連れ術師は、私などよりはるかに戦い慣れしておる……」

8：「……と、おっしやいましても」

日が明けて、招かれてラングレーの社で事情を告げられたミラマーは、頭をハンマーで張り飛ばされたような思いだった。

「相手が皆目判らないのでは……」

「それも今朝の勤行で判明した」ラングレーはきっぱりと言った。「魔王フェルディナンドの妾……ダイクマじゃ」「ダイクマ？」ミラマーは意表を突かれて面を上げた。「トビリシとは違うのですか？」

ラングレーは首を振った。

「トビリシは、子供はあやめん。やるのはダイクマじゃ」

ミラマーは、しばらく考え込んでいた。時が流れる。

「一週間……と申されましたな」彼女は呟くように言った。「……努力はいたしましょう……しかし保証はできません……」

「町人には私から何とか説得する」ラングレーはうなずき、手をついて頭を下げた。「頼む」



昼過ぎから、ミラマーは再び街を巡り始めた。いつものことながら店はキサラに任せた。

わからん、何故だ、と彼女は歩きながら自問した。右手の錫杖が考えるには少しうるさいような気もしたが、仕方なかった。いわば彼女は実戦態勢に入ったわけで、御幣だけでは力不足だったからだ。

——この街に、一体何がある？農作物も自給自足に毛が生えた程度、ここを押さえたいからとて何がどうなるというものでもない。宿場町とは言え、すぐ近くにも似た程度のところはいくらでもある。生贄を取るだけとしても、もっと取り易いところはいくらでもあろうに。わからん、何故だ。

徘徊するうちに、見覚えのある通りに出た。あまり好ましくない感覚が全身を走る。

何故だ。何なのだ。

彼女は不安になった。警戒心が急速に高まっていく。

なおも足を進めようとする、突然



のこのように違和感を伴う唾液があごの奥から滲み出してきた。…まずい。先刻からじわじわと全身を包だしている不快な脂汗をはっきりと意識しつつ、彼女はあたりを見回した。誰も見当たらない。奇妙なほどひっそりしている。

それは予想外に早くやってきた。

彼女は路地裏へ飛び込んだ。それに続くのは、まるで安宿の粗製酒と駅馬車の両方に酔ったときのような…激しい嘔吐。

ひとしきり戻したあと、彼女はあたりを確認した。今の「気」の荒れ…一体、何物か。

鑢杖に気を込める。周囲の空気が、ぶん…と共鳴し始めた。結界が張られている証拠である。…そのまま通りに入る。

見えた。

ついこの間までトビリシが居ついていた家だ。恐らくはこの部分の時空を切りつないだのだろう。一般人は気付かないが、例えばミラマーのように「力」を扱う者に対してはかくの如き影響を及ぼす。予測はしていたが、まさか実際にやっていたとは…。

…おや。

この気配はトビリシとは違う。ラングレーの言っていたダイクマのものだろうか。だとすると、手を合わせたことがないだけにやり辛いことおびたらしい。トビリシならば何かに気を奪わせておいて、その隙に突っ込めばいいだけである。ここは退いた方が得策かも知れない。下手をすれば2対1かそれ以上になる。それでは話にならない。…いずれ、なるべく早目に手を打つ必要はある。…一人ではだめだ。キササを加えても多分、方不足かも知れない。と、すると。どうすればいい。

傭兵を2、3人頼むか？

それはできない。現状で複数の傭兵を雇うことは経済的に困難であるし、それに肝心のときに脱走される恐れもある。教会の力を借りて正規兵を回してもらうこともできるが、時間がかかりすぎる。リチャード2世王は決して無能ではないが、教会と王室との間の事務機構が事態を手遅れにすることは十中八九確実である。実際問題として、やたら時間をかけることはできない。

傭兵を洗脳すれば？

慌ててミラマーはその考えを、自分の頭から追い払った。それでは行かないの醜さでトビリシと何ら変わらない。絶対にしてはならないことだ。

ラングレー師…彼は、自分亡き後町の民を護り、導いていかなければならない存在である。半分還俗しているも同然のミラマーより先に死なせることはできない。

しかし、一応相談する必要はある。

ミラマーは足早にそこを立ち去った。

「…なるほどな。やはりダイクマであろう」

ラングレーは、ミラマーの話を一部始終聞いて、しばらく考え込んでから答えた。気配の特徴が酷似しているという。

「やつは現世で流産しておる。そして、子供に対して異常な執念を持つに至ったところまではハッキリしておるがな」

「して、対策は」

ミラマーは思わず身を乗り出した。

「ない」

ラングレーの答が予想外に早く、簡単すぎたので、ミラマーは呆気にとられてしまった。外の子供の声が耳に滲みってくる。

「今までに普通考えられる方法で成仏させようとしたものは枚挙にいとまがないが、いずれも失敗しておる。手強いぞ」

敵は強く、正攻法は通じない。

ミラマーは不意に無重力の中へ落ち込んだ様な錯覚を覚えた。 (続)

真鶴レポート

菅原絵馬が、影山翔の自室へ直談判に行った。つい二、三日前にF-18でしつこく攻撃してきたことについての文句が主目的だったが、それは何か考えがあつてのことと菅原は見ていて、そのことについて何かほのめかせば、可能なら一口乗る気でもいた。

…が、影山は冷めていた。

「何でお前が文句を言いに来るんだ。別にお前の艦が攻撃されたわけじゃないだろう」

「でも、あれは僕の艦隊だ」

「そうか。でもよ、俺がやったって証拠はどこにあるんだ、あ？このチビ」

「チビ」…この一言で菅原はカチンと来た。身長161センチ、180センチある影山から見れば確かに小さいが、だからと言って別にチビと言うほど小さくもない。しかしながら、菅原は背丈についてはコンプレックスに近いものを抱いていた。

「何だと！」菅原はムキになった。「もう一ぺん言ってみろ！」

「おー、何度でも言つてやらあ、チビ。俺がやったって証拠はどこにあるつてんだあ！」

「この野郎！」

二人ともほとんど同時に飛びかかった。背丈で不利な菅原は影山の急所を思いきり蹴り上げたが、影山の方はボクシング部仕込みの重く素速い右アッパーを決めていた。よく見ればそれがひと昔前のゲームにあつた「昇龍拳」に近い形だつたことがわかつただろうが、特に菅原には気づく余地もない。二人は距離を置き、互いに見据えた。お互い全身を駆け巡る激痛をこらえているのだ。早々と見切りを付けて菅原がまた飛びかかるが、再び昇龍拳もどきのアッパーでかわされた。次々に影山の技は決まっていき、菅原はとうとう部屋から放り出されてしまった。

「おととい来やがれ、このチビ野郎！」

影山の捨て台詞は、やはり「チビ」でしめくくられた。菅原の頭上に、ヒヨコが舞う。

坂井法子は迷っていた。この間栗田はるなに投げかけられた問い——「何のために飛ぶのか」の、いつまでも答が出せないでいるのだ。そのいらだちが欲求不満を生み、配属のA-4班の他のメンバーに、空戦機動練習であたり散らす結果を招いた。

4月も後半に入つてすぐのころ、永野伊勢が彼女の前に現れた。今でもなお、宇垣の「ハイライト」艦上配備のS-2Fに乗り続けている彼女が、MFの基地に姿を見せるのは、極めて異例のこととも言える。その彼女が、夕方、練習から帰つてきた坂井を出迎えた。もっとも坂井の方では永野を知らないから、呼びかけられた時にはこうしか答えようがなかつたが。

「…誰ですか？」

「…あなたの愛のキューピッド」永野はとぼけた。…ムツとなって立ち去りかけた坂井の腕をとり、必死でフォローに入る。「私は永野伊勢。宇垣先輩から話聞いたのよ。…あなた、はるな先輩に気があるんでしょ？わかつてるよ」

「バカな事言わないで！」怒り心頭に発した坂井が、まっ赤になって振り向く。「一体何の用なの！」

「MFの方のはるな先輩のこと、相談に乗つたげる。提督先輩（榛名のこと）から言われたの」永野の目は真剣だつた。「はるな先輩が影山に襲われたのは知つてるでしょ」

坂井がうなづく。

「自分がそれを防げなかつたのを、悔やんでるでしょ？」

苦々しげにまたうなづく。

「でもこないだあんな事言つちやつたから、近くには行けない」

「一体何なの！」坂井はまた暴発した。「イヤミ言いに来たワケ！」

「そんな、まさか」永野は手を挙げて制した。「影山はどうせまたしかけてくるわ。…」

提督先輩の予想だから、間違いないわよ。如月先輩の情報もそれを裏付けてる」

余談だが、栗田榛名の「予想」と如月まどかの「情報」は最も信頼してよいものというのが、真鶴校内の常識である。榛名の腹心と言ってよいとされている永野の話であるから、これもまた信頼してよさそうだ。

「はるな先輩を助けるのよ。それこそ、あなたの想いを遂げる最高のチャンスじゃない！」

「……でも、それじゃまたはるな先輩のために飛んでいる事に……」

「とんでもない！」永野は目を丸くした。「あなたは自分のために飛ぶのよ！誰のためでもなくてね」

「はるな先輩を護るためじゃない」坂井が呟く。

「バカねー！」永野は手を腰にあてがった。「影山みたいな乱暴者が、我が物顔である空を飛び回るのよ！あなたの憧れを踏みこいてね！悔しくないの？腹立たないの？あなた本当にオ××イついてんの？」

坂井は、決心した。

井村真知子の乗艦、「ちくご」級護衛艦「まや」艦内———

所狭しと設えられている電子機器の中で、有明みどりは一つのパソコンにつきっきりになっていた。このパソコン一台で、「まや」に追加した無線機や電子妨害装置などを一括して操作することができる。アイコン入力による抜群の操作性は、今までの有明の作品の中でも満足できる方に属していた。

そして有明が今追っているのは、特に風紀委員の無線、人間、装備の動きだった。風紀委員の使っているコンピューターへの侵入は、委員長専用のパスワードを見抜いてしまったからというものは何も難しいことはなかったし、無線の傍聴にしてもスクランブルの特性を見抜いてしまったからは特に困ることはなかった。

もともとこれは井村自身が内緒に、私的に始めたことだったが、すぐに有明にバレてしまったのである。港を出て、電子情報収集のために男子部の領海に着くまでのしばらくの間、井村は機器室にこもりきりになっていた。当初、その前に有明から機器の操作方法を教わっていたのだが、その時に有明は井村が何をするか大体の見当は付いてしまったのだ。あとはもう井村が「何かやっている」間に機器室へ忍び込んで、確認するだけだった。この機器室の工事は有明がやったのだから、入り口の電子ロックの解錠など、朝飯前である。

結果としては有明がやった方がはるかに確実に、しかも効率よく情報が入ってくるようになった。この半月だけで有明が得た情報は、総合すると次の通りとなる。

- ① 暗号名「オーバーロード作戦」なるものが5月上旬に発動される。
- ② 「オーバーロード」実施に当たって、「教皇」から「十字軍」が派遣される。
- ③ 男子物理部が縮小機を使って暗号名「錬金術」という実験を行なっている。
- ④ 女子工芸部が暗号名「トロイ」を2基ないし4基制作中である。
- ⑤ 「トロイ」は全て女子部内にある。

「オーバーロード」「錬金術」「トロイ」がそれぞれ何であるかまでは、さすがの有明にも見当が付かなかった。どうやら、5月初頭の連休あけに行なわれることになった男女対抗戦に関係が深そうなことだけは確からしいのだが……。何か重大な事件と関わりがありそうなのだが、出所が出所だけに、どうも他の者にはバラせない二人だった。

風紀委員のクーデターについての情報収集には一歩先んじていた「はず」の春日千明は、効率の面で井村たちに完全に抜き放されていた。勿論井村たちがそんなことをしているなどとは思っても寄らないが、自らにもどかしさを感じていたのは事実である。あくまでも頭脳派の攻めで通し、そしてそれに成功した井村・有明組と違って、こっちは正面突破を図った。三河委員長に直談判へ持ち込んだのである。

三河は案外あっさりとして春日に会った。クーデターのイメージが先入観を作っていたせい

も手伝ってか、その鋭利な顔つきは春日をひるませるに充分だった。

「何の用だ」委員会室の一番奥にある委員長席に座る三河は、側で立っていた春日に冷たい視線を射込んだ。それだけで彼女が硬直するのを見て取ると、三河は勝手に一人で話し始めた。

「……ちようどころにもお前に話があったところだ。……“オーバーロード”について嗅ぎ回っているらしいな」

「……」春日は必死で何か弁解しようと試みたが、声にはならなかった。息がのどをすかすかと通り抜けてしまうのである。これが噂に聞く「超能力」だろうか。

「たかが外進（高校からの生徒）の一般委員の分際で、ずいぶん出過ぎた真似をしてくれるじゃないか。」

「一言、警告しておく。“オーバーロード”のことは、今はまだ公になってはならんのだ。これ以上嗅ぎ回ると、お前の命そのものの保証もしないからそう思え」

「……そのオーバーロード」春日はようやく言えた。「一体何なのですか、委員長」

「失せろ」

明らかに蔑んだ態度で、三河は目をあわせようともせず、冷たく言い捨てた。

この態度が春日の行動を決定した。洗いざらい模型部の「上司」、加越にぶちまけたのである。風紀委員会は何かに縮小機を使ってクーデターを実行するつもりらしいこと、彼らは機密保持にやつきになっていること、等々……

「……わかった。榛名先輩に相談してみる」加越京子は模型部の活動中、90式の砲身に横座りになって相談を受けた。春日はその砲塔前面に腰掛けていた。「……あんたはもうこれ以上、誰にもこのことを話しちゃだめだよ」

もっとも、それは杞憂かも知れなかった。春日はすぐに風紀直率のRF-4E隊に配属変えになったし、平素から風紀親衛隊の監視下に置かれたからである。

坂井法子、春日千明、栗田榛名など、いわゆる「危険人物」の監視に人数を割かれた分、他の「要注意人物」の監視は緩やかになっていた。沖田征二はその恩恵にあずかったうちの一人である。

ある日男子部風紀委員の本部に呼び出された沖田は、いきなり与えられた幸運に、耳を疑った。風紀委員の常時監視下から解放されたのである。それが本当であることを理解すると、次を取る行動は一つしかなかった。化学部への復帰である。部長はまだ御手洗、果たしてすんなり入れるかどうか不安の種だったが、それもきれいに解消した。

あっさり認められたのである。

「物理部が風紀委員とグルになって何かしでかすらしい。もしそうなったとなりやオメ、男子理系クラブの末代までの恥だ。……不本意だが毒には毒、お前さんの非常識……もとい、突飛な着想はうちに必要だ。少なくとも物理部には取られたくない……あの連中を邪魔するためなら、ここの試薬は好きに使っていい」

御手洗部長は、不本意を満面に浮かべながら、それでも沖田の復帰を認めた。

春日からの話を持ち込まれた榛名は、加越の説明だけで閃いたようだった。すぐに同室の如月や、居合わせた宇垣などと相談に移る。

「……！まさか、そんな……でもあれは違法だし……安全装置は……」

加越も一緒になって聞いていたが、その推論は驚くべきものだった。

どこかに大きめの縮小機を設置し、そこへMFの航空機またはMAの戦車、場合によってはMSの艦艇も、「逆に」通して1/1とし、自衛隊などに対抗するのでは。

もし現実に起これば秩序の大混乱を招くことになる。それ故縮小機は法令によってこれら大型兵器は通してはならないと定められている。また、そのためのリミッターも備えている。しかし、私製の非法品ならば、どうか。模型本体の安全装置もいじってしまえば理論上不可能ではない。日本有数の暴力団をバックに持つ風紀委員会、水準以上の技術力を持つ男子物理部、そして女子工芸部。この三者が一体となつたとなれば、そのぐらいの

ことはできるかもしれないのである。

「今年の対抗戦は血を見るな、多分。それも一等ド派手なやつをよ」

宇垣はふと、呟いた。少なからず期待しているように見えるのは、気のせいではないだろう。

そんな深刻な話が進行しているとは露知らず、東大鳳は女子部への報復処置を実行に移そうとしていた。持込みのレオパルドⅡに乗り、先日自分のパーシングを穴だらけにくれた女子部の90式戦車を討ち取ろうと画策していたのだ。そこにあるのはただ単純な、あくまで単純な報復心。MAの友人などを説得して、なんとかM48など十数台をそろえると、それで再び女子部境界線へ繰り出した。いとこの榊裕も一緒である。今回はスキを見て作っておいた「仕掛け」がある。勝つ見込みはそれなりにあった。

春日が抜けて一時三台になっていた加越の班は、彼女と交替に入ってきたバスケット部員の肩馴らしも兼ねて、その日もやはり境界線付近で猛射撃を行っていた。もっとも前回の苦い経験があるので、位置座標表示からはなかなか目が放せなかった。

やがて班員の一人が無線で告げた。———左に攻撃ヘリと男子部らしい戦車隊発見。

「射撃中止！」加越は言った。「とりあえず引っこむわよ！」

いくら爆裂戦車娘、追加装甲フライパン娘の加越とて、攻撃ヘリと喧嘩してはならないというぐらゐの常識は備えている。位置座標が女子部なのを確認して、4台ともそこから遠ざかった。……が、男子部の戦車はかえって近寄ってくる。

「なんか怪しーなー」加越は指の爪をかんだ。「……よし！帰ろ！ひとまず基地まで戻るよ！君子危うきに近寄らず、てね！」

東は4台の90式戦車が全速力で引き上げていくのを、気の抜けた面持ちでモニターから眺めていた。よもやそんなことは計算外だった。やつつけたいのは山々だが、逃げる敵を撃つのは気が引ける。……今回は帰るか。

「帰るよ！」

そう言って、車体を反転させ、しばらく走ったとき、東のレオパルドが急に地面に沈んだ。……しまった。落とし穴を掘っておいたのを失念していた。

今日はツイてない……仲間に引き上げてもらいながら、東は思った。当分こっちに来るのはやめよう。鬼門に違いない。

ところが鬼門は加越たちも同様だった。東たちの姿が草群に隠れて見えなくなってすぐ、加越たちはジェットエンジンらしい音が段々大きくなっていくのに気が付いた。90式戦車はピストンエンジンだから、……すなわち、音源は航空機。

一旦停車し、ハッチを開けて見回してみると、ちょうど5機ぐらゐの編隊がこっちへ向かってくる。———危ない！

加越は直感すると、急いで車内へ滑り、全速散開を指示した。……が、10数える間もなく、着弾。衝撃波が加越たちを尻から持ち上げ、引っくり返し、吹き飛ばす。ベルトを締めるのが間に合わなかったら、それこそ首と腰を痛めていただろう。横倒しになった車体から這い出した彼女たちが見ると、その編隊は、もはや見えるところにはいなかった。

天然曲芸娘・早坂理絵のアクロバット行為はまだ続いていた。月後半になって再び銀座天賞堂へおもむき、XB-70を買おうとしたのだが、さすがにこれは断念せざるをえなかった。中1の小遣い程度で買えるような代物ではなかったのである。しかし、この機体がなければ自分の「珍機コレクション」が完成することはない。いつの日か、余裕ができた第1買うことを心に誓い、とりあえずうつぶん晴らしに衝動買いしたのは、YB-49全翼機だった。それでも小遣いの全てを注ぎ込む結果になったが……。そしてコレクション収集に張り切る一方で、気前のいい行動にも走った。自分の「T-2CCV」を、「弟子」の井村真知子に譲ってしまったのである。あまりに珍機が多すぎて、T-2練習機に高機動カナードを追加しただけの代物では飽きがきたのだろうか。……が、井村の方でもいつまでも早坂の弟子の地位に甘んじてはいなかった。とりあえずT-2はもらったが、使い

はずに自分で新しく機体を買ったのである。F-104Jがそれだった。胴体は無塗装、尾翼と翼端タンクだけが真っ赤に塗られている。それで、自発的にズーム上昇やスプリットS、タッチ&ゴーをやり始めたのだ。

「私もずいぶん無茶する方だとは思うけど、104でスプリットSをやらかすような人、初めて見るわ」F-107でそのさまを見物していた早坂は、ほめているのか何なのか自分でも分からないことを言った。「……なんか、前よりもっと気に入っちゃった！」

それは、井村にとっては地獄の一言だったかも、知れない。

にもかかわらず状況が進展するのがこの世のままならぬところでもある。ある日二人がアクロ練習で洋上に出たところ、栗田榛名率いる女子部第一艦隊——大和級戦艦1、金剛級戦艦2、タイコンデロガ級巡洋艦1、はたかぜ級駆逐艦1、あさぎり級駆逐艦2、たかつき級駆逐艦3——が、菅原の第6独立艦隊と模擬戦を展開しているところに出くわした。菅原は鳩山のタイコンデロガ級「ジクロル・ジフェニル・トリクロロエタン」が直るのを待って、再び女子部への腕慣らしに出始めたのであるが、たまたま最初に出会ったのが運悪く榛名の艦隊だったというわけだ。

さすがに主力艦隊だけあって、菅原たちは多勢に不勢の観が強かった。しかも菅原の見たところ、榛名は明らかに手加減していた。

どういう訳かデータリンクに細工されたらしくて、菅原たちのレーダー画面には、接近するまで目標は駆逐艦とフリゲート艦、しめて4隻だけ、しかも中1の艦隊と出ていたのだ。至近まで接近したころ、今度は背後に戦艦10隻、空母10隻、巡洋艦30隻、駆逐艦50隻などという空前の大艦隊が出現した時はさすがに怪しいと思ったが、その時はもう手遅れになっていた。46センチ砲の模擬弾が作る、比較的小さめの水柱が立ち始めたからだ。実は有明みどりが、弱いところばかり狙ってくる菅原艦隊に与えた「お仕置き」なのだが、本人以外は知る由もない。榛名の方でも空母を中心にした10隻の艦隊を「発見」したので駆け付けただけなのである。

そこへ、事態をさらにややこしくする問題が発生した。F-18三機から成る編隊がどこからともなく飛来、一隻のタイコンデロガに集中的に爆弾を投下すると、またいずこへかと逃げていったのだ。果たして被害に遭ったのは、鳩山の「DDT」だった。

「畜生！風紀は何やってやがる！」浸水で大きくかしいだ艦内で、当然のように鳩山は逆上していた。「外来機のシャットアウトが穴だらけじゃねーか！」

栗田はるなが遂にジェット旅客機に機種転換した。それなりに愛着のあったDC-7を離れるのも惜しいが、そんな事は言ってもらえない。目的に向けて進むのみだ。

そのはるなが選んだのはDC-8-63だった。長距離用の格別に長い胴体を備えていて、“スマート”とはどういう単語か、すぐに理解させるような魅力にあふれている。はるなばかりでなく、長門たちも喜んだ。護衛するときによたら燃料を消費しなくても済むからである。もっとも、普通は尾翼の「捻じ山桜」を見ればすぐにおとなしくなるから、護衛の必要はないのだが。

……が、数少ない「例外人物」が早速チョッカイをかけたから、話がややこしくなる。はるな以下4人全員、そんな馬鹿をやるのは誰か大体見当は付くから、まっすぐ突っ込んでくる3機の機影を確認した段階で戦闘準備を整えた。夕方のこと、いつも通りの慣熟飛行を終えて、さて帰投しようという段のことだったから、いらだちも一際ではあった。「こっちは低速機だよ！ちった恥つてもんを知りな！」一番口の悪い長門が、データリンクから取り寄せた個別コードで影山機であることを確認して、言い散らす。「一体どこにキ××マ付けてんだい！」

「そっちが勝手に旅客機に乗ってるんだろ。やられたくなけりゃ他のにでも乗ればいいじゃないか。そっちにだって戦闘機に乗るチャンスはあるんだからな」声は確かに影山のものだった。「それよりいいのか？今回は実弾を持つてるぜ。外から飛んで来たからな！」

返ってきた返事はこうだった。はるながブチ切れる。

「OK、わかった」抑えた口調ではるなは言う。「こっちは回避行動を取らない。6時に

ついて、好きなだけブツ放しなさい。そうして自慢すればいいわ」

「ちょっと、はるな！」扶桑が慌てる。「いいの！」

「どうせ回避行動を取ったとしても同じこと……それより、早トチリする奴がいないように、その辺見張って。それに、彼のもってるのが本当に実弾だったら、体当たりでも何でもして潰してもらわないと。……さあ、来なさい！」

「さすがのはるなさんも実弾は怖いってか！」

言い捨てると同時に影山は、自分のF-15CをはるなのDC-8のピッタリ真後ろにつけた。垂直尾翼には「サイレントメビウス」の香津美の絵が描かれた跡が残っていたが、後ろから見守っていた3人は黙っていた。後にヨタ話のネタにはしたが……。

扶桑がパイロンを注意深く調べる。

「……実弾だ！」彼女の毒付きはそれだけに収まらない。「チクショ、風紀委員のノートリン……外からの飛来機は徹底的にチェックしてるはずじゃ……」

……最初に「それ」を見つけたのは、霧島である。

「4時方向！……赤いフランカー!?まっすぐ突っ込んでくる！」

「なんだって！」

指先が鬱血するほどのロックオン連打に夢中だった影山以外の全員が、そっちを見た。確かにSu-27の特徴ある機影が、ぐんぐんこっちに近寄る。

「坂井!?」はるなはとっさに気が付いた。そして、その後の行動もおおよそ見当が付いた。

「坂井さん！バカなことはやめなさい！……死ぬ！」

しかし、当の坂井の耳には、肝心のはるなの声も入っていなかった。一連の影山の言いぐさ、扶桑の「実弾だ！」という言葉、それらが彼女の頭を占領して、逆上させていたのである。はるなのためなら死んでも構わない。そんな考えさえちらついていた。

その瞬間は、見ているものにとっては逆に無限にも思えるほどゆっくりと展開した。

はじめに、フランカーの左主翼がイーグルの右主翼の後ろにくっついた。続いて両者が溶け合い、そして……分解。

「この……バカヤローッ！」

はるなが、長門が、……そして、ようやく気付いた影山が。ほとんど同時に、叫んだ。そこへ冷酷にも、白根こだまの無線が届く。

「こちらは風紀委員会です」その声は心なしか緊張して、震えていた。「ただいまから先輩たちは風紀委員の監視下に置かれます。全機、脚を降ろして当機に従って下さい。基地まで誘導します」

「誘導されなくたって、コースぐらいわからあ！」

長門があたるが、はるなはそれをとりなした。

「その声は白根さんね。今の一部始終は見てたんでしょう」

「はい、もちろんです」

「危険行為の制止義務は知ってる？」一拍置くと、無線モードが超近距離用になっているのを確認して、はるなは続けた。「今のはその制止対象だったと思うけど」

「……」白根は下唇をかんだ。既に死文化している条項から攻めてくるとは、さすがに委員会からマークされるだけのことはある。あるいは、ダテに戦慣れしてはいないとも言えるだろう。これじゃタイムボカンの悪役と大差ないじゃない！

「こっちはそのことを先生に報告してもいいのよ」

これは一つのギャブルだった。風紀委員は一部の学校の役員にもコネを持っているから、逆にチクることが不利になるおそれもあるのだ。

「……わかりました。今回は見逃します」

こんなことなら、栗田はるなにそれなりの敬意を示して超近距離無線を選ぶことなく、地上局でもキャッチできる一般無線にしておくべきだった。白根こだまは後悔を覚えつつ、機体をバンクさせてその場から去ったのだった。今回もはるなは、賭けに勝った。

坂井のことも、「よくある事故」として揉み消された。衝突回避装置が通常通り作動していれば、起きえないことなのにもかかわらず……。

さて、対抗戦が目前に迫った4月末、伊藤早苗と配下の7人は、機種転換を行なった。生徒会委員の立場を少々悪用して、F-4EからMiG-29へ変えたのである。F-4はクセがありすぎ、それに能力に限界がある、というのが主な本音だった。

さて、その機種転換に成功すると、伊藤は同室だった留学生、ジェシ・ヘンリエタに模擬戦闘の挑戦状を叩き付けた。条件は2対2、視界外戦闘も含めた異機種戦闘で、日本側は伊藤自身と坂井法子。カナダ側はジェシともう一人。表向きの理由は親睦だったが、実は留学生の戦力のほどを確かめるためだった。

戦闘状況は、各機の状況がそれぞれに備えられたデータリンク装置からリアルタイムで地上に送られ、コンピューター処理で様々な視角からの映像として観戦することができる。模擬戦当日は、このディスプレイの前に、それなりの人ばかりができた。話が急でもあったので、日本側の観客が今イチ集まらなかったのは悔やまれるだろう。それでも例によって何人かが、どっちが勝つか、誰が最後まで残るかの賭けを受け始めていた。

離陸は言い出しっぺの伊藤を最初に、4機全部が女子部から行なわれた。一端編隊を組んで海上に出ながら距離を取る。パートナーの坂井はSu-27だ。本当はF-18に乗りたかったのだが、それではほとんど同機種戦闘になってしまつてつまらない、と伊藤に説得されたのである。カナダ側の使用機はCF-188、カナダ版F-18。見方によってはMiG-29やSu-27は兄弟機とも言える。

結局最初に相手を発見したのはレーダー能力で優る坂井だった。F-18相手の模擬空戦にSu-27というのは反則に近いものがある。…のだが、坂井はそこでミサイルロックをかけなかった。それは騎士道精神でも何でもなく、「多分はるな先輩なら、ここでロックはかけないだろう」という判断からである。コンプレックスがまだ抜けていないわけだが、その頃地上で観戦していたはるなは、

「…バカ！ロックかけりゃいいのに！」

…坂井とまるで逆のことを言っていた。

伊藤も歯軋りした。この役立たず！…が、格闘戦をやらずに勝負が付いてしまうのでは面白くない、という気もしてはいた。

そういうわけで双方中距離ミサイルの発射能力を持ちながら、それを使わずに格闘戦に入るといふ珍妙な現象が発生するに至った。エンジン出力で段違いに優っている坂井のフランカーが急激に高度を稼ぎ、それで得た運動エネルギーを降下スピードに転換、左ひねり込みでカナダ機の後を取ると、並んで飛んでいたうちの一機は右へ旋回、もう一機は左下へ捻り込んで回避に入った。右へ回った方を伊藤が追う。こちらは真っ当に正面から突っ込んでいた。伊藤の追った方が、マーキングから見てもジェシだった。ジェシは後を取られると、すぐに右へ回ろうとする。その癖を割合早く見抜くと、あとは強かった。短距離ミサイルのロックも含めて5、6本取ったころ、地上から時間切れを知らせてきた。その間伊藤の方も3、4本は取られていた。再び4機が横並びになる。

「へっへー、私20本完封勝ち」

坂井は自慢げに言ってきた。…20本！完封！まるで親善になってない。伊藤はただ呆れるばかりだった。…カナダ人たちが何か言葉を交わしているのが入信してきた。

「ドウまりー、調子ハ」

「作戦通り完封サセタワ」マリーと呼ばれた方が気さくに言っている。もちろん英語だ。

「マ、アノフランカーハ楽ニ討チ取レルワ」

「ね、何て言ってるかわかる？」

坂井が聞いてくる。わかんない、とごまかしながら、伊藤は信じられない気持ちで耳を傾けていた。

「…デモ、アノふあるくらむノ方ハワカンナイネ。6対4ニハシタケド」

…げ。全部仕組まれたのか。しかも、八百長を坂井に見破らせずに。否、計画的だったからこそできたのか。裏切られた。かなわない。…そんな様々な思いが、次から次へと伊藤の頭の中を走り回り、やがて一つにまとまった。…女子部は今年、勝てるのだろうか？それからしばらくの間、伊藤は腰から下の震えが止まらなかった。

今回のPC及び主要NPC（アンダーライン付き）

高校 男子部 普通科

1年A組 榊 裕 立花 陽明
2年A組 影山 翔 貴志 参 竜野 了
3年F組 加賀 実

理数科

2年H組 冲田 悟 菅原 絵馬 鳩山 平和
3年G組 赤城 広義

女子部 普通科

1年A組 朝比奈 美雪 春日 千明
2年A組 伊藤 早苗 加越 京子 坂井 法子 初雁 つばめ
F組 永野 伊勢
3年D組 栗田 はるな 長門 洋子 扶桑 和子 霧島 宏子
F組 池田 美穂 宇垣 麻美 栗田 榛名 如月 まどか

理数科

1年H組 (天本 伊織)

中学 男子部

1年A組 東 大鳳

女子部

2年A組 有明 みどり 井村 真知子 早坂 理絵 白根 こだま

その他のリアクション

・東大鳳

その他特記事項なし

・有明みどり

↓で収集した情報の分析に明け暮れる。

・井村真知子

男子部へ出て電子情報を収集する。

・早坂理絵

その他特記事項なし

・白根こだま

その他特記事項なし

・榊裕

ワンゲルに入部。模型部ではMF、AH-1Jの班に配属。

・立花陽明

弁論部の部員集めは不調のまま。男子部艦艇全艦に砲撃訓練を強化させることを作戦本部に提案、採用されて全員に発令する。真鶴の歴史を調べ始めた。

・影山翔

その他特記事項なし

・貴志参

その他特記事項なし

・竜野了

その他特記事項なし

・沖田征二

暫定的に男子部MS作戦本部連絡要員に任命。白衣の汚れがまた酷くなってきた。劇臭が非難的になり、異例の処置として個室が与えられた。

・菅原絵馬

DMシステムにおける衛星兵器の可能性について検討し始めるが、ほどなく不可能が判明。実質使用高度が上限5~600mでは話にならなかった。類似案としてはAWACSなどの偵察機類しかない。対抗策はお定まりの電子戦用機。

・鳩山平和

その他特記事項なし。毎日の余暇を座禅による精神鍛錬で過ごす。

・朝比奈美雪

対地攻撃練習を切り捨て、その余力を坂井との空戦訓練に充てる。

・春日千明

宇垣にやられた反動で、拳銃の射撃訓練を始めた。ADATSを購入して対空攻撃の訓練も開始。飛行中のMF機に対して空撃ちするに留まる。風紀委員会では委員会直率のRF-4Eの班へ移された。

・伊藤早苗

その他特記事項なし。

・加越京子

相変わらず猛射撃を続ける。初雁と地下鉄建設について打ち合わせることが多くなった。

・坂井法子

朝比奈を空戦練習でしごく。

・初雁つばめ

旧海軍「鳥海」級重巡「CA-3」の艦長に任命。栗田榛名艦隊付きのまま。「鳥海」と命名。加越と地下鉄建設再開について話すことが多くなる。

校長から

最初に謝ります。有明みどりは無実です。一部に彼女が風紀委員とつながりを持っているという見方を持っている方がいるようですが、これは一方的に私の誤植によるものです。風紀委員に関する記述で有明みどりがやったとなっているものは、全て白根こだまの誤植です。すみません。

そう言えば、前に指摘があったような気がしますが、この真鶴学園、雰囲気的には「聖エルザクルセイダース」と「ハイスクール重機動作戦」をよくシェイクして、仕上げに「蓬萊学園」を数滴たらすと出来上がり、という感覚です。上の2作をまだ読んでないという不屈き者は、今すぐ本屋へ走れ！「エルザ」は角川スニーカーで松枝蔵人、「ハイスクール」は富士見ファンタジアで樋口明雄だ！……でも、原作者がこの話を書くに至った要因が、「キャプテン翼」にあったなんて、……誰も信じないだろうな、多分。

今度はいよいよ男女対抗戦です。日付は5月1日。そして連休の後はひたすら平日。イベントはそれ以外ありません。

大暴露！

空技廠スタッフ紹介《その2》

今回は、空技廠本部以外のスタッフの紹介を行ないます。備考は自己申告に基づいて菊地が作成したものであり、また似顔絵はほとんど自画像で誇張等が多分に含まれるため、必ずしも実物と一致としてはいないことを、ここにおことわりします。

(その1)

林 孝始 (イラストレーター)

昭和47年2月平日生まれ

魚座。 男。 ARh+。

藤沢市在住。 社会人。

PN：孝行 始

持病：気管支喘息、膝関節の穴、胸・背中などに原因不明の痛み、近眼

好物：コーヒー、洋酒、柑橘類全般、肉料理
魚料理、バイク（ヤマハ・外車・旧車）
車（マツダ・外車・旧車）モータースポーツ全般、アメリカ・イギリス・ドイツ製戦闘機、阪神タイガース、近鉄バッファローズ、TVゲーム（シューティング・アクション・ドライビングに限る）、テーブルトーク、特撮映画、洋画、ゲームミュージック、SHOW-YA（第一期）、酒井法子
筋肉少女帯、プロレス

嫌いな物：納豆、警察（交機）、族、旧ソ連製兵器、共産主義、トヨタ、日産、メルセデス、BMWの最近の車、トレンドドラマ、読売ジャイアンツ、ストIIの「ハメ技」

備考：空技廠の「主砲」。創業から半年前後に入ってきて、以来常に100%近い信頼性を誇る。ワリとハンサム。どうもお客の蔵田さんに似ている感じがする。田中ヤグアルとの内輪ネタがかなり通じる、一種「エーリアン」的な一面も持ち合わせている。最近「トーン技師」化の傾向をたどっている。





(その2)

秋山 秀一 (文章書き)
 昭和46年12月平日生まれ
 山羊座。 男。 ARh+。
 桑名市在住。 社会人。
 PN: 晃孝秀一

持病: 閉所恐怖症、金属アレルギー、近眼
 頭痛持ち

好物: 麺類、車、ミリタリー、洋酒、ゲーム
 全般、格闘技全般、阪神

嫌いな物: 政治家、保険屋、証券会社
 孝行の使う春麗、ミーハー

備考: 孝行始と同じころ空技廠に入ってきたが、未だに謎の多い人物である。とにかく熱烈な虎ファンらしく、週末に阪神戦があったら、その間は電話をつなぐことはまず不可能となる。アナーキーな一面も持ち合わせており、「政治的」な話題が私信にからむとしばしば泥沼に陥る。

(その3)

渡部 里奈 (イラストレーター)
 昭和46年5月平日生まれ
 牡牛座。 女。 ARh+。
 札幌市在住。 社会人。
 PN: ただのりな

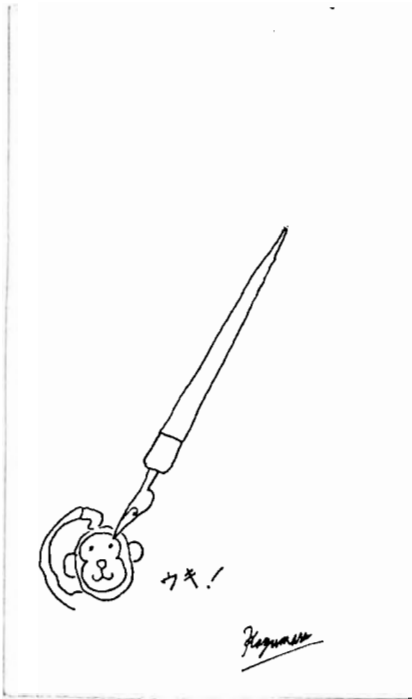
持病: 近視、乱視

好物: 魚、くじら、ヨーグルト、お絵かき
 筋肉、マンガ

嫌いな物: タバコ、らっきよ、パンチラ

備考: 空技廠の「波動砲」である。少林寺拳法2段らしい。最近は札幌のコミケによく出没している模様。最近入手した情報では、GG以外にウォーロック、ファンロードでも常連を張っていたことが判明した。しかし未だに謎のベールに包まれた部分が多い。結構面白い、らしい、ということはわかるものの……。最近は「創竜伝」にハマっているらしい。一ファンが思い詰まって向こう見ずな行動に走った、その犠牲者である。





(似顔絵未到着)

(その4)

井村 和正 (イラストレーター)
昭和47年2月平日生まれ
水瓶座。男。BRh?。
瀬戸市在住。学生。
PN: なし

持病: なし

好物: 雲、犬、山、野心、野望、西部劇、大型レシプロ機、紅茶

嫌いな物: ハンドマイク持って騒ぐ連中
ラッキョ、ゴキブリ、UFO、お化け
社会党

希望する職業: デザイン関係

備考: 空技廠の「両用砲」。SD専属。孝行始に若干遅れて入ってきた。信頼性の高さでは孝行始と肩を並べている。自らも空戦PBMを2本主催していて、相当多忙な身上である。作品の緻密さでは、恐らく現スタッフ中右に出るものはいないだろう。

(その5)

鈴木 裕子 (イラストレーター)
昭和46年11月平日生まれ
射手座。女。ORh?。
千葉市在住。学生。
PN: ゆきま(所により緑玲子)
持病: 不明(多分ないであろう)

好物: 漫画、アニメ、同人誌、セナ
テトリス(これ以上は書けない)

嫌いな物: 不明

希望する職業: 不明

備考: 空技廠最新のスタッフ。裏表紙のネタ詰まりに苦しんでいた編集部に、駒大アニ研の連絡帳に連載(?)していた1ページ漫画の使用を快諾してくれた。一時期「コスプレの師匠」という評判が立ったが、最近足は洗った模様。なお、以上の項目は91年春に発行された、駒沢大学アニメーション愛好会々誌「MADITATION外伝」を基に、空技廠本部が作成したものです。

三 等 雑 居 室

ハード。

☆前回菊地君は「ゲームにもいろいろ種類があるし。おそらくFRPGやシューティング系のゲームを言っているのですが、それならそれこそゲーム機でやった方がいいです、絶対。それ用の造りをしているから」とありましたが、それに対し反論があります。それは、パソコンじゃないとその機能を生かせないゲームがいくつもあるからです。例えばフライトシミュレーター系がそうです。この種のゲームはボタン（キー）が多数必要で家庭用ゲーム機ではせいぜいボタンは多くても10コ。しかもパッドでは操縦は無理と言ってもいいでしょう。しかもこの手のゲームは家庭用ゲーム機ではシェアが低く、パソコンからの移植も全く期待できません。それらが理由かどうかは知りませんが、家庭用ゲーム機にフライトシミュレーターのゲームはありません。念の為に、一応は存在しますが、所詮は子供だましでシミュレーターではなくただのシューティングゲームです。しかもシューティングゲームをとってもパソコンの方が移植度で言ったら優れており、パソコンでしか発売されていないものや、中には家庭用ゲーム機には移植できないものも数多くあります。RPGもそうです。最近ではPCM音源を使い、家庭用ゲーム機では真似のできないことをやったりもします。確かにそれだけのものでいいなら家庭用ゲーム機でもいいかも知れません。しかし、僕はそれ以上のものを必要とし、手に入れたいとも思っています。菊地君の言いたいこともわかりますが、パソコン、家庭用ゲーム機問わず、両方にメリット、デメリットが存在します。その上でどちらかにするかは、各人の価値観ではないでしょうか？

(千葉県・小西清彦)

☆小西さんに対する菊地君のコメントに対してですが、最近、98を買う奴らはゲーム目的が多いのは事実。そういう場合、やはり音源が悪いのは許せないでしょう。まあ98で音楽が必要なゲームなんてそんなにありませんがね。7割ぐらいがHゲームだし。

NECもわかっているんだから、その辺を考えてほしいもんだ。それにしても、どいつもこいつも98、98、バカみたい(98にケンカ売っているようだ)

(神奈川県・蔵田昌弘)

乙：まず、コンピューターの生まれた源を考えましょう。……アメリカ陸軍が砲弾の弾道を計算するために開発した「エニアック」ですね。もう既に、シミュレーション、データ解析のために生まれたということがハッキリしているわけです。もちろんシューティングやFRPGも大きく見ればシミュレーションですが、そこに「音源」であるとか「画像の繊細さ」という要素は必ずしも必要とされてはいないのです。現在でこそ集積回路の性能が上がって余力が付き始め、「音源」だの「画像」だのが注目され始めていますが、私は言いたい。「それは違う。断じて違う」と。そもそもコンピューターというのは、一にスピード二にスピード、三四がなく五にスピードだと思のです。極言すれば、いくら音源がよくて絵が綺麗でも、演算が遅かったらそれはクズです。この点ゲーム機は、集積回路の能力が奇形的に発展したものと分類できるので、いくら速くても絵と音が悪かったら話にならないわけですね。そこに、「オモチャ」と「仕事道具」の大きな違いがあると、そう思っているわけです。別にあなた方が「ゲームをするため」に高価なパソコンを求めようと、私はそれを中傷するところまではしません。そんなのは個人の自由ですからね。ただ、私はそんなことはやらん、と。

第一、98などのビジネス機にゲーム中心の需要を持ち込むのは、関数計算機に「電卓博士」(懐かしい……)の機能を要求するのと同レベルです。従って「ゲームのため」に高級機を買い求める必要性を私は認めません。「副次的に」ゲームに使うなら話は別ですが。何しろ、「〇〇やっててCとPとテンキーが入りにくくなったんだよなー」とかいう会話を耳にすると、昔の貧乏だったころ(ゲームウォッチさえなかった)の習性で、ヘドが出そうになるたちなので……。

ストII。

☆スーフアミのストIIをやってみました。アーケードと技が異なる点がありますが、文句なく買いでしょ。しかしあのパッドだけは何とかしてほしかったです。ボタンを把握するのも一苦勞でした。友人宅で6時間ぶっ続けて親指が紫色に変色してしまいました。一日ぐらい使えませんでした。(秋田県・菅原忠幸)

☆(前略)会社の友達と近くのゲーセンで「ストII」と「達人王」、後は「SONIC WINGS」に燃えています。ストIIはまた春麗使ってます。最近また調子がよくなってきました。後はバルログ、ブランカで遊んでいます。さらにその友人がスーフアミのストII買ったもんだから、こないだの週末なんか、二人してうちの寮で朝までやってみました。左手がつりそうになるまでやるんだから……スーフアミ版は技が出やすくなって、お陰でリュウ・ケンもダルシムも使いやすいです。そのお陰で指がいたくなるんだけど。(神奈川県・林孝始)

么:何故そんなになるまでやる!!!? ああもう、うちのシミユ研・アニ研掛け持ちの後輩Tも「親指が黒くなっちゃいました」って見せるし、あれそんなにいいゲームか? 私や、「ストリートファイター」シリーズは、史上稀に見る「キャラだけでもってるクソゲー」だと思うんだけどなあ。ヘタのひがみだとは思うけど。駒大アニ研なんて、完全にストII研(もっと言えば春麗研)に変貌しちゃったしなあ……

「SONIC WINGS」はやっぱり真尾まおでしょう。ほどよくバランス取れてるし。キャラは可愛いし。言うことなしだね! まおちゃん! GDで堀尾さんに先を越されたのは痛かった。ま、いいけど。

ところで……「達人王」って……何でしょう……?

A大戦略。

☆そうそう、最近またアドバンスド始めました。まだモスクワが終わらない。そろそろIII号戦車の限界を感じています。T-34が妙に強くなってきて、結構苦勞しています。相変わらず空戦では勝っていますが、次々わいて来る対空車両と戦車、それとカチューシャに泣かされています。(神奈川県・林孝始)

么:うふ♡最近、決定的な露助撃退法を入手しました。ご希望の方には伝授して差し上げます。もう、バカみたいに分厚い装甲で、主砲が150ミリ(弾数3)、副砲が75ミリ(同20)、機銃が7.92ミリ(対空不可)、Sマイン付きなんて怪物が、ケースホワイトから使えます。戦闘機もデータ上最高のHe162(実物知ってるともの凄い違和感があるものの)が同様にして使えるし、爆撃機ものつけからMe264で核爆撃ができるという、もうゲームバランス崩れまくりの「気持ちよすぎる」戦いを展開することができます。フラストレーションの解決には最高でげすね。

88。

☆そういえばPC-88を入れられたそうですね。ウチにも88のFAがあります。じつはちょっと前まで68Kもあったんですが、「ある事情」のため、88だけになってしまいました。長年使ってきたのでだいぶガタもきてるんですけどその分愛着もあります。ホビーマシンだし、今を乗りきるにはパワー不足だけど、菊地さんのFRも可愛がってやって下さいね。(神奈川県・渡辺喜一郎)

☆88入手おめでとうございます(とっていいのかどーか)というわけで、ここでちょっとCM。

帝王通信

毎月1日(?)発行 一枚200円

ユーザーの酒場などいろいろなコーナー盛り沢山!

別に僕がやってるわけじゃないけど、他の88ユーザーにもいってやってください。誌面にのっけるとか……それじゃ大戦略ガンバッテ下さい。（これが届いたころにはもう売っぱらってたりして）
(三重県・勝本充司)

㊦：売っぱらうなんて、とんでもない！今度買うとしたら98だし、こないだヤグアルと横浜を探索してみた得た情報では、つい先日でたばかりのFS（だっけか、ヤグアル？）が約20万だったし、当分更新はないでしょう。現在わかっているうちでは、前の渡部さんと勝本さんとヤグアル（FRとVA）だけが88ユーザーですが。この本が届くころには小西さんちにも88が（人のこた言えないが今時酔狂な……）入ってるかな？で、この「帝王通信」てのは88ユーザーの同人紙なワケですか？「一枚」であるところを見るとB5コピー1Pなんてとこかな？試しに一回頼んでみようかな。

吉岡。

☆菊地さんが吉岡平嫌いだとは知りませんでした。私は好きですが。（宮崎県・山田国見）
㊦：ま、私も植木等のファンでなければ、あれはあれで楽しめるんでしょがね。あのタイラーの設定は本家の植木等をバカにしている、と言うかまるっきり理解していません。植木演ずるところの「無責任男」は、一見無責任のようでは、実はもの凄いのモレツ男なのです。常にハツラツとしていて、大ボラを吹いたあとで言っただけのことは実行しています。それも運抜きで、ムリなく。（時は正に東京オリンピックを目前にしたモレツ時代で、世相を反映してもいた）それこそ本当に、おべんちゃらと純然たる作者のご都合主義だけで元帥まで行ってしまった、不健康なタイラーとは雲泥の差です。あれは実は大変「分厚い」キャラクターなんですね。そこへ来たらあのタイラー！作者は「無責任男がベースです」と言ってますが、そりゃ無責任男に失礼ってもんです。あー、思い出すだけで胸クソが悪くなる。ペペペッ。

……とか何とか言いながら、「婦警さんはスーパーギャル」シリーズは買ってたりもしますが。でもあの、吉岡作品に一貫した「ご都合主義」は何とかならんのかなあ。

キーワード。

☆（前回のアンケートのキーワード、“2 Cheeseburger and 1 Beer”）これって、何が言いたいんですか？
(東京都・小原正敬)

㊦：特に意味はありません。「菊地がほぼ3年ぶりに外人に向かって発した外国語」というだけです。厚木の基地祭で出店のオッチャンに使ったんですよ。気持ちよかったー。

コミケ。

☆多分今年には行かないと思います。皆さん、熱い中頑張ってください。え？字が違う？でも、あそこは“暑い”より“熱い”の方が色々な意味で合っていると思いますが。

(東京都・遠藤誠)

㊦：……現在8/7。原稿は一つも集まらず。落ちたかな、こりや。あーこりやこりや。本格参加初回でいきなり最新号落としてちゃ、シャレにならんや。一応保険として、9号を10部ほど刷ってあるんですが……落ちてるだらうな、多分。暑いし。

☆夏コミかあ。いいなあ。私も一回でいーから東京のコミケに出てみたいですね。ところでスペース取れましたか？南さんとか、速水さんとか、神居さんとかも出るみたいですね。いーな。私の方も札幌のイベントに参加します。8/23です。でもよろずだからあんまオリジナルは売れんだろう。弱小だし。

(北海道・渡部里奈)

㊦：……現在8/10。ただのさん、EX-SYSTEM、鬼崎さんの原稿が一気に揃いました。まったく冷や汗ものですが、今から打ち込みを始めるととてコミケには間にあわないので、鬼崎さんの断念します。すみません、締切りには間にあったのに……。

そして、現時点で一等手のかかるのが離れても、なお「コミケ落ち」の危険はチラチラしています。これから修羅場じゃー！……げっ、全然関係ないことを書き連ねてしまった。スペースですが、私は前回冬コミで知り合いに（半ば強引に）なったサークルさんに「寄生」させてもらってます。それでA3ポスターを一丁前に出すってんだから、恐れ知らずもいいところでしょう。うん。

DQ。

☆田中ヤグアル真人からFCとカセット数種を預かったので、その中のDQⅢ・Ⅳを今更ながら並行プレイしています。現在、Ⅲはバラモス相手に二〇三高地をやってます。全然歯が立ちません。勇者のLvは28あたりです。Ⅳの勇者はLv32、しかしゴットサイトの街が見つからないので、やはり立ち往生しています。一体どうしたらいいのでしょうか？何かいい方法をご存じの方がいたら情報を下さい。ちなみに、勇者の名前はいずれも「はるな」です。
(神奈川県・菊地研一郎)

字：私もⅢでバラモス相手に二〇三高地を繰り返しています。私からもどうかよろしく。

PBM。

ここのは特にお勧めです。マスターを殺すことになるので気は進まないのですが、「真鶴」に不満タラタラの諸子は、こちらもプレイしてみても。

名称：Trouble in Sosyu

内容：学園もの。多少オカルト含む。

備考：「真鶴」のごった煮処理とは違い、どうやら「一キャラクターマスター」でやってるようです。おまけに一キャラごとに別々のリアクションが一冊（40P前後！）付きます。舞台は千葉県央（？）の八千代市。時代は現代です。

連絡先：

坐禅。

☆禅のご指南有難うございました。私も絵を描いてから「はっ一休さんはこうではなかった様な……」と思ったんですけどそのまま送っちゃった。ごめんなさい。ちなみに私坐禅できません。高校の少林寺では正坐でした。で、正坐がつかなくなってきたら安座というものをします。教えて頂いた禅の組み方の左足を右足の下へもってくる（半跏趺坐のこと）というのと同じだと思いますが、私はこれさえも出来ません。足がういてしまうしすごくつらい。私はあぐらをかいていたフトドキ者でありました。体かたいなー。

(北海道・渡部里奈)

么：ふう。このワープロ（リコー・マイリポートN10）、「少林寺」って字が辞書に入っていないでやんの。……それはそれとして、ただのさん、すみません。私信からやたらに使ってしまって。時短のために「一等喫煙室」も落とすことにしたので、その分の穴埋めに必死なのです。

私は仏教校にいるのが長いワリに、坐禅の組めない人も周りに多いようです。私自身は半跏趺坐も結跏趺坐も一時間ぐらいは組むことが出来ます。で、正規の坐禅の時間というのは一時間弱（特別の線香があって、これが一本燃える間という風に決まっている）です。ま、坐禅なんてのは、形はさておいて、自分の心を正面から見つめるのが目的ですから。空虚に自分を見つめられれば、自然と姿勢の方がそれらしく整ってきます。……おおっと、何だか宗教の講義っぽくなっちゃった。

拳法に限らず武道の場合は、正座が基本ですよ。私はその正座って奴が大の苦手で……マジメにやると20分もちません。従って、大概はあの「女座り」と「正座」の中間のような好い加減な座り方をしています。読者の皆さんはどうでしょう？

ついに---

今、国内だけでなく、海外周辺諸国からも騒然たる論議を巻き起こしているある法律が先日、可決された。いわゆるPKO法案（今ではPKO法と言うべきか）であるが、巷では「法を撤回しろ」だとか「子供たちを戦場に送る気か」と、語気荒々しく演説する人をよく聞く。

私個人の意見としては、PKO参加には賛成だが、自衛隊の派遣は反対である。なぜなら憲法第9条に「兵力の非所持」や「武力による他国干渉の禁止」が定められているからだ。あいまいな憲法の拡大解釈でその場その場の言い逃れをするから反対派にいいように文句を言われるのだ。兵力を持つなら憲法を改正してからしろ、と私個人としては言いたい。

では自衛隊とはなんなのか。最近中学校の教科書に国家がそれぞれ自衛隊を擁護する権利即ち「自衛権」を記載することが報道されたが、自衛隊が日本を防衛するという名目で結成された集団であるのは誰もが認めることである。そして絶対に他国に武力干渉（即ち攻撃）をすることがない防衛力だから、軍隊ではないというおかしな集団である。（軍隊じゃないのに税金割いて戦車や戦闘機買って部隊を訓練して隊員に税金で給料払うか？）ないと困るしあると憲法違反。だから名前だけが違う「防衛力」が必要として結成された。まさに「矛盾の申し子」である。そして「矛盾の申し子」は世界で10本の指に入る規模を誇る武装集団である。

オイシイ商売

えらそーに選挙前だけ演説する政治屋が自衛隊反対とかPKO反対とか戯言をホザいているが、こういった連中は本当に自衛隊の実状を知っているのだろうか？こういった連中は大抵「自衛隊は世界第〇位の軍隊」とか「戦車1台数億円。それが数百台。この予算でいくつの福祉施設が建てられるか」などと演説する。確かに演説の内容にウソはない。だがこういう政治屋は私はあまり好きではない。国民の大多数が自衛隊に好意的でないことをいいことに選挙前の人気取りのために言ってるんじゃないかと思えないからである。

選挙前は「私は皆様の生活改善のために全精力を注いで努力していく所存でございます」

などと言うが当選した後はえらそーにふんぞりかえるだけ。（湾岸危機が高まっていた時イラクに直接乗りこんで行動した政治家はアントニオ猪木だけである）汚い金を大企業や暴力団がらみで徘徊させ、懐にいただく。（政治屋ってウソついてもサギにならない。おいしい商売かも？）

中学の公民の教科書にも載っている「シビリアンコントロール」。正常な民主国家が兵力を持つ上で必要不可欠なものであるのは間違いないが、こんな金に目のくらんだ糞共のいいなりにならなくてははいけない自衛隊が実に気の毒である。

自衛隊は必要か？

去年の暮れ、世界2大超大国のうちの1つ、ソビエトが崩壊し、事実上の東西冷戦終決となった。アメリカは国防費を大幅に削減し、世界全体が軍縮に向かうご時勢だから自衛隊も防衛費削減となった。しかしだからといってソビエトがかつて保有していた陸海空の兵力が今も戦闘訓練を続けているという事実が存在する以上、日本の防衛費を削減することに私個人は疑問を感じる。その根拠としては

- ①アジアにおける各国の軍事力の差
- ②政治的不安定材料の存在 —— 等である。

確かに冷戦終決後に東西ドイツが統一、ヨーロッパでは地域的な紛争が残ってはいるが、NATOは一部部隊の撤退を始めている。これはかつてNATO軍とワルシャワ軍それぞれの戦力が対等であった上に話し合いがついたからこそ兵力削減に双方が応じられるのであるが、極東アジアはそうはいかない。なぜならアジア各国の軍事バランスが大きく傾いているからである。（下図参照）

国名	陸軍	海軍	空軍
ロシア	36万人	194万t	2240機
中国	230万人	100万t	6050機
北朝鮮	100万人	8万t	780機
韓国	60万人	12万t	390機
日本	15万人	30万t	410機

※露軍は極東軍のみ 除、在日韓米軍

前頁の表の様な形で兵力の偏りがアジアで生じている。軍事バランスが崩れたとき——それは危険な状態であることを意味する。例としては90年8月のイラクのクウェート進攻が記憶に新しい。もちろん、軍事バランスの崩壊だけが戦争の原因ではないが、重大な要因であることは間違いない。そしてもう1つの不安材料の大きな要因としては、政治、経済面が挙げられる。

中国が最近開放路線を歩んでいるのはよく知られたことであるが、これは経済面に限ったことであって政治面では相変わらずである。その証拠として日本政府との尖閣諸島の領有問題、(ここに中国が海軍を配置すれば日本の生命線が脅かされることになる) 名前は忘れたが、南シナ海での領土問題(これはベトナム等数カ国が入り乱れて争い合っている。石油が採掘されるからみな血眼である)、米海軍の兵力削減を見計らった海軍の増強(ロシアから新品の空母を購入!)等々数え挙げれば切りがない。だから中国はこんなことを言ってるのだろう。「世界の覇権を狙う帝国主義アメリカを打倒せよ! 日本はその同盟国である」と。

中国以上にアブないのは北朝鮮である。多くは語らないが、GNP25%を割いて維持する世界第4位の軍事力、核兵器製造疑惑、西日本をも射程内に収め、日本に阻止する手段が皆無であるスカッドB改弾道ミサイル、そして戦中の日本への恨み、そして国のスローガン? 「南侵体制」

私の思いつきで書くだけでこれだけ不安材料が列挙されるのである。いくら市民たちがデモを繰り返し「戦争反対」「自衛隊を解散しろ」等と叫んでも地上から全ての兵器を放棄するか、全世界の人々が聖人のような考えを持たない限り自衛隊は解散されないと思われる。もし自衛隊が解散したとなってもそれに相当する組織、国がスポンサーとなって人の殺し方を訓練する武装集団が編成されるであろう。要は綺麗事を言っても「振りあげられた拳から身を守るのにはやはり自らの拳しかない」のである。

世界第三位

自衛隊の総兵力は近隣アジア各国と比較するとロシア、中国は言うに及ばず韓国、台湾にまで劣る小規模武装集団である。にもかかわらずなんと日本の防衛費は世界第3位、年間4兆円という巨額が費やされている。これは全国民を1億2千万人と勘定して1人あたり年間¥33,000以上の防衛費を支払っている計算になる。しか

し、専門家に言わせれば自衛隊は先進国の軍隊としては最低と評価する。またかつてある人は「自衛隊は戦えない軍隊」と語った。軍費は古今東西を問わず膨大なものと相場が決まっているが自衛隊は「膨大な予算を喰うくせに質は最低の軍隊」である。ではなぜそう評価されるのか。「膨大な予算」と「最低の質」について考えてみよう。

まずその莫大な防衛予算はどのように費やされるのか考えてみよう。自衛隊の兵器を例として下表にまとめてみた。

装備品	西側諸国装備	自衛隊装備
主力戦闘機	米 F-15C イーグル 約66億5千万円	国産 F-15J 約 90億円
主力戦車	米 M1A1 約3億5千万円	90式戦車 約 12億円
装甲車	米 ブラッドレー 約2億5千万円	89式戦闘車 約 6億円
自走榴弾砲	米 M109 約1億2千万円	75式155mm 約 3億円
自走 ロケット砲	米 MLRS 約 3億円	75式130mm 約 2億円
自走高射砲	独 ゲパルト 約 8億円	87式自走砲 約 15億円
歩兵用小銃	米 M16A2 約 6万円	89式小銃 約 28万円

※比較装備品の性能はほぼ同等 1\$=¥140

見て分かるように国産品はかなり割高である。どうかすると外国製のなんと数倍もの値を付ける兵器もある。自走ロケット砲に限れば米国製の方が高価だが性能は段違いである。(MLRSは口径 240mm散弾30Kmの射程と新型制御コンピューターを装備するが75式は口径 130mmのロケット弾、射程20Km、開発から既に15年が経過している。)では防衛費を圧迫するこれら高額最新鋭装備の元凶は何なのだろうか? まとめると

- ①狭くて小さな兵器市場(輸出の禁止)
- ②人件費、設備費の高騰
- ③装備の小量タレ流し生産
- ④時代錯誤の防衛戦略
- ⑤無能なシビリアンコントロール

などがとりあえず考えられる。装備の面だけでこれだけの問題点が素人にも指摘できるのになぜ防衛費のムダ使いは改善されないのか。そのムダとは何であろうか?

◆
国と国が対峙する場合、各国が保有する軍事力はたとえ友好関係（同盟ではない）を結んでいたとしても互いを威圧し合う無言の戦力である。軍事力は外国との交渉を（例外を除いて）有利に進めるために必要不可欠な要素の1つであり、国の安全を保証する存在でもある。それ故、各国は特別な事情がない限り、血眼になって軍備を増強しようとする。そしてその戦力を最も簡単に分析する方法は各国が保有する兵員の人数、装備の種類とその総数を割り出すことにある。もちろん、これだけで軍の総合的な戦力を判断することはできないが、兵器・兵隊数は軍事の素人にも簡単に各国の軍備がどの程度進んでいるかを判断させることができる。その結果政府は派手な正面装備（戦車、装甲車、火砲、航空機等の軍備のパロメーター）に金を注ぎ込み、国内外にその戦力をアピールしようとする。特に自衛隊にはその傾向が顕著に表れている。ここに防衛費のムダ使いの原因の1つがある。初頁表を見ると自衛隊は各国に比べ兵員の規模の割に海軍や空軍の兵力が大きいのが理解できる。これは日米安保に基づく米国の極東戦略の一環であり、政府の防衛方針でもある。

こう書いてみるとかなり自衛隊の防衛戦略は世界中の軍隊と変わらず（ただし自分ではケンカを絶対仕掛けないが売られたケンカは買うという方針が異なる）ご大層なもののような感触を受けるが、自衛隊の現場は実に悲惨である。

例として74式戦車を挙げてみよう。この戦車は1974年に正式採用された国産戦車であり、現在の陸上自衛隊の主力戦車であるが、防衛予算の決められた枠組みの中で予定調達数を達成しなければならなかったため、当時最新鋭とはいえ、値段が2輦4億円と決められていた。（同世代戦車のアメリカ製M60は半額の1輦2億円であった）暗闇でも戦車砲の射撃を可能にした暗視装置を始めとしていわゆるカタログデータは世界中の戦車と比較して何ら遜色ない陸上自衛隊のいわばご自慢戦車だった。しかしカタログに出ない性能、具体的には整備性や、稼働率、耐久性、機構の問題点等欠陥がゴロゴロ出てきたのである。坂道に停車させれば自重でズルズルと動き出すため（ブレーキの欠陥）車止めが必要（どこの世界に車止めが必要な戦車があるのか？）戦車砲を撃てば砲身が破裂してしまう事故ばかり（明らかに手抜き製造である）整備中に砲塔がブンブン回転するという漫画じみた事故まで起きている。（整備中の電源の安全装置が装備されていない）自衛隊という組織の体

質上、表に出ない事故が多いはずなのに、こんなに変な事故が報告されるのである。

私自身も自衛隊が悲惨な装備で訓練しているのは知っていたが、ハイテクで世界に名を轟かせる日本がこんな欠陥兵器しか作れなかったことは正直言って調べてみて驚いた。なぜこんな国産の欠陥兵器の製造が続けられるのか、なぜ実戦に投入されて新型装備の有効性や信頼性が証明され、しかも価格が国産品に比べて格段に安い外国製兵器を輸入せずに兵器の国産を続けるのか。「こんな防衛予算の使い方は浪費に等しい。いっそのこと優秀で信頼の高い外国製品を輸入すべきである」と大衆は考えるであろう。しかしこれには明確な回答がある。

①輸入やライセンス生産に頼った場合、その兵器に投入される機密事項（最先端技術）は生産国の国益であるため、習得が困難になる（事実航空自衛隊のF-15戦闘機の電子装備の一部はアメリカ側から自衛隊に公開されていない）

②兵器を輸入に頼ると有事に補給路を遮断され不利になることがあり得る

③平時に兵器の取引が政治上の取引の条件にされる恐れがある

④兵器の自主開発と生産が国内技術水準の向上に貢献できる

⑤国内における兵器の開発、生産、配備、運用と一貫した活動こそが明確な防衛力、阻止力として働く——等が挙げられる。

◆
よって防衛費が国家予算の一部として予算が編成されている以上、政府は欠陥国産兵器の製造を企業に命じるしかないのである。もともと海外派兵は行なわない方針であったし、国外への輸出も考えていなかったからこんな欠陥品でも今までは事足りてきた。しかし時代は自衛隊に国内でぬくぬくと過ごすことを許さなくなってしまった。発足以来35年以上本格的な派兵をしたことがなかった自衛隊であるが、PKO法の可決により自衛隊はカンボジアに国連軍の一員として派遣される。国産兵器がそれなりの性能でそれなりの数、それなりの価格で生産されるならいいが、現実とは全く逆である。兵器の開発・国産の必要性は相応に考えられるが、政治屋先生方にもう少し自衛隊について考え直してもらいたく私は思う。このまま派遣して無事に日本に自衛官たちは還ってこれるのかどうか、を。（続）



(その6)

田中 真人 (顧問その1)

昭和47年12月平日生まれ

射手座。男。BRh+

横浜市在住。無職。

PN: ジャギユア

持病: 胃弱、アレルギー性鼻炎、近眼、難聴
幻聴、幻覚、神経過敏、独言

好物: ドイツ軍、時代を問わず軍事全般
オーディオビジュアル、コンピュータ
自然科学、超常現象、銀英伝
ロードス島、ブラックジャック、
黒騎士物語、ラーメン

希望する職業: 公務員 僧侶(?)

プログラマー 情報技術者

備考: 親は「ロードス島」の作者(水野良)に似ているらしい。性格は一見穏やかだが、実は「らんま」の五寸釘のごとく陰湿な面も持ち合わせる。

神経障害があるらしく、幻聴が絶えず、独り言も多い。もっとも、ワザとやってるうちクセになったという見方もある。最近「公安にマークされている……」「お釈迦様が火星から来るエスパーを殺せと電波で命じてくる」「ぢ・ヒサヤ大黒堂」「人形にも悲しみはある」(頻度順)という類が多い。私とは中学以来の知り合い。その特異な特徴ある性格と、豊富なコンピューター関連の知識で抜擢された。目下、この種の人材しか近場にはいないというのが空技廠本部の直面している問題である。

※このページは、本来ボツになるはずだった「迷想装甲擲弾症候群」と「田中真人の紹介」が、印刷開始直後に到着するという事態が発生したことに対応して取られた、応急処置(ツギハギ、やっつけ仕事とも言う)です。通常ならもう一度原稿を組み直すのですが、今回はよりにもよって後のページから印刷し始めたため、このようなメチャクチャなページ編成になってしまいました。読みにくくて誠に申し訳ありません。……両面30枚も刷ってしまったものを一からやり直すほど、お金に余裕はないんです、空技廠は!しかもコミケ合わせのを10日から作業開始してるから、日数にも余裕がない。何せ印刷できる時々ののが、私がバイト終わって帰るときだけですから。

コミケさえなければ……。なければ半月遅れたらという見方もできますが(鬼崎さんの原稿がうち上がるまでに数日、その後印刷できるレベルまでテンションが上がるまで数日)それはさておき、すべてコミケが悪い。何で8/16、発行予定日ピッタリにやるんじゃー!おまけに横浜そごうで21日までやってるサンダーバード展にも行けない(平日は児童館の“幸せな”バイトである)し、くそー!ガッデム!

行け行け外回り！ 大阪・堺篇

……それでも半端ができてしまったので、無理矢理穴埋め行きます。

8月1日

0530時 自宅を出る。この時間横浜線は本数が少ないので、タクシーを使うつもりで振り返りながら菊名まで歩く。……が、来ない。少し歩いて大通りまで出るが、それでも来ない。段々不安になって駅に戻ると、すぐに電車が来た。疲労感と共に、新横浜へ発車10分前に着く。バイクで来ていた宇垣は既にホームに居た。切符は一ヶ月前に早々と取ってあった。

0616時 「のぞみ301」に乗車。山側2列を占める。乗車率は目測で9割。ほとんどがビジネス客らしくて、私服の我々は大変目立つ。加速がきつくてわずかなGを感じさせるが、その割に安定感は優れている。とりあえず、車販のビールをあおる。

0830時 定時に新大阪着。正宗と落ち合う。そしてそのまま、弁天町へ。

0930時 交通科学館開館。実はその小一時間前から前をブラブラしていた。正宗はまだその辺を案内できるほど歩きまわっていないし、だからと言って神戸まで行くわけにもいかないため。とにかく涼を求めて館内へ。

1000時 誰も来ない。「Blowers9」を恥じらいもなく持ってその辺を歩きまわっていたが、何の反応もなし。弁天町の改札(2ヶ所ある)も確認したが変わらず。

1010時 諦めて待機解除。そのまま宇垣は正宗と神戸観光へ行く。私は堺へ。洲上さんの「イベント・プロメテア」なる、クレギオンのプライベートに参加するため。プライベートと言えば聞こえがいいが、実は徹夜を前提とした飲み会である。

1030時頃 堺東に到着。会場まで、軽い目眩を覚えながら汗だくになって関西特有の湿気の中を歩く。二度迷う。現場で何が起こったかについては、洲上氏の「プロメテア会報」(三種類のどれになるやら)に出るはずなので、割愛。

1930時頃 純然たる飲み会の開始。「カポトーモレン料理(主に刺身)争奪戦」始まる。これは何かと言えば、長いテーブルが大体二つに分かれて、お互いのつまみを強奪しに回る。これを「砦だあ！」と言って次々ビールを注いで阻止するため、ちょっとした見物になる。「こりゃ高校生は入れらんないなー」と思いつつ、一握りのシラフ軍団に混じり、タコで消化不良を起こした胃を抱えて苦しんでいた。無念!

2200時頃 カラオケに雪崩込む。私はいつも通り悪い癖が出て、軍歌に始まる「旧い歌」を人の迷惑も顧みずにどんどん歌う。その内自分のいる部屋が無人になってしまったので、「こりゃいいや」とばかりに冷房を緩和して仮眠をとる。

2430時頃 カラオケ終了。何人かずつ、近くのプロメテアメンバーの家に世話になる。私は洲上氏宅へ。古い街並みの中の、結構広いうちだった。時間が遅いので、シャワーで汗を流すだけに留める。結果としては大して効果はなく、翌日も自分で自分の臭い分かるほどだった。

8月2日

1200時頃 「イベント・プロメテア」第二部開始。しかし前日にほとんどのネタが出尽くしてしまったため、かなりのローテンションに終わる。飲み会の疲れも出たか。

1400時頃 何をするでもなくなってしまったので、旭川の谷岡氏の都合に便乗して退出。そのまま帰途に着く。

1430時頃 新大阪着。とりあえず「銀河」の切符をキャンセルして、一番早い「ひかり」の切符を取る。指定は売り切れていたため自由席。

夕方(もう忘れた) 新横浜着。眠いのと、今更ながら飲み会の疲れがドットとでて、タクシーを使う。……が、これが「神風タクシー」(死語?)だった。もう乗らんぞ、横浜無線。運ちゃんカゼひいてたし。(以上)

まとめ:今回は交通科学館の企画がボシャった時点からつまづきつ放しだったという見方もできるし、逆にそれが幸いしたという見方もできる。一番悪いのは、「篤銀企画」が流れてしまったことだと思う。……どこが「まとめ」なんだろう。

後記

菊：今回はもうヤケです。間に合えばいい！

字：「北総新撰組」のみなさん、お世話様です。

岬：五輪柔道で金取った古賀と吉田は、私の高校のOBです。てへっ。

長：今回は定時に原稿が集まったらしい。よきかなよきかな。

Staff

編集長：菊地研一郎／編集補佐：宇垣麻美

筆者：長船吉光 岬当麻 菊地研一郎

絵：ゆきま 孝行始 ただのりな（脱稿順）

Blowers 第10号

第3巻第6号（通巻11号）

松本清張追悼 兼

QE2座礁記念 兼

空技廠創業4周年記念 兼

空技廠コミックマーケット本格参入記念 兼

バルセロナ五輪柔道 古賀・吉田金賞記念 兼

前代未聞言語道断の拙速主義突貫作業記念 兼

遊演体PBM「那由多の果てに」

最終リプレイ大遅延記念

平成4年8月16日発行 代価300円

（送料別）

編集人 菊地研一郎

発行人 菊地研一郎

発行所・印刷所 「空技廠」

※本誌記事の一部または全ての無断使用を禁じます。

今月の表紙

「F-100D・サンダーバース仕様」

絵：孝行始

次号は9月中旬発行予定です。

なお、原稿メ切は9/10（必着）です。

